

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ひと葉（児発）		2025年 3月 24日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13		利用定員に対して、広いスペースが確保されている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		利用定員に対して、職員の配置人数は多く配置されている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13		今年度、事業所内の整備を行い、学習室が広くなり、収納も増え、整理整頓されているので使いやすくなった。活動目的に合わせて、場所を区切っており構造化された環境となっている。また、現在の利用児童に必須ではないが、スロープや、手すりなどの設置もありバリアフリーに対応している。	情報伝達として、見てわかる（視覚支援）ようにしてあげると理解しやすくなる。視覚的な説明がもう少し必要と感じる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13		児童の帰宅後、しっかり掃除や除菌作業を行い清潔に過ごせるように配慮している。また日々の清掃に加えて、丁寧に片づけをしていただけているので、整理整頓がされ心地よく過ごせる環境となっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12△1	△1	フロア、学習室、畳部屋等、複数の部屋があり、それぞれ居心地のいい場所を選択できている。状況に合わせてクールダウンの為や集中して学習する、運動をするなど部屋や場所を分けて使用している。	クールダウンスペースや利用方法について子どもに理解させると良い
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	13△1		業務改善の為に会議を多く持っている。日々のミーティングなどで上がった内容や、改善が必要な項目に関しては、常勤職員を中心として会議を持ち、その内容をパートさんを含め全職員に共有をするようにしている。	記録としてわかりやすいものがあるとよい。データとして閲覧できる環境が整うとよい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		保護者向け評価表を1年に1度行い、その結果をもとに業務改善につなげており、昨年度の保護者からのご意見をもとに今年度は保護者交流の機会を増やせるように年間の予定を立てて取り組めた。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		毎朝のミーティングで気になる点の相談をしたり、その都度気になることに関しては管理者等に相談をして業務改善の機会に繋げている。職員同士が話しやすい環境が作られている。日頃から、声を掛け合っており職員関係も良い。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	7	第三者委員会は使用していないが、外部の職員に事業所の業務改善について相談をして取り組んでいる。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13		年間スケジュールを設定し、研修の実施日を設定しみんなが日程を把握できており、法人内での法定研修や専門職員による事業所内でのスキルアップ研修を取り組むことが出来た。また、各自で気になる研修などを受けて自己研鑽する機会もある。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		支援プログラム原案を作成し、職員全員で確認した後に、ホームページに公表している。	

適切な支援の提供	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	13		S-M検査やWisc等の検査や、面談、直接観察などを通してアセスメントを行い、職員間で会議をして児童発達支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13		・ケア会議で色々な職員からの意見を取り入れ作成している。 ・児童発達支援計画作成の際に主に常勤職員を中心に会議をして作成をしていたので、今後はパートさんも含めて会議に参加してもらう機会を持ち、より共通理解につなげていきたい。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12	1	共有が上手くいっていない部分があったので、新しく情報共有のやり方を変えて対応を始めた。	データとして閲覧できる環境が整うと良い。 職員が支援の目的、目標を理解する必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13		S-M検査やWisc等の検査や、直接観察などを通してアセスメントを行っている	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13		・アセスメントと保護者からの要望なども含めて総合的に判断し、事業所内で会議をして計画を作成している。 ・支援計画の中に5領域を含めた支援を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13		・職員間で相談して立案並びに、利用児童も交えた活動立案会議を行い利用児童からの意見も含めた活動プログラムとなっている。 ・プログラムを固定せずに、複数にして行うなど皆で話し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13		季節に合わせた行事や、利用児童からの要望なども取り入れ、静の活動や動の活動、SSTなど利用児童に合わせた活動目的を設定して、月ごとに活動プログラムを立案している ・月に1回「活動を決める会議」を児童全員と考えるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	13		児童一人ひとりのニーズに合わせて、個別での対応をしたり、他者との関わりを目的とする内容の場合は集団での活動など適宜組み合わせて取り組んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13		常勤職員に関しては、午前中にミーティングを行っており、その中で、活動内容、流れ、目的を共有している。また、その内容は職員ラインを使用して全員で共有している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13		毎朝のミーティングにて、前日の活動の振り返りや気づいた点、良かった点、改善点についての共有を行なっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		個別の記録を作成しており、ケア会議等で振り返りの際に使用している。今後は、ソフトを使用してデータベース化していく予定なので、より細やかに振り返りが見込める。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		6ヶ月に1回、又は適宜モニタリングを行い計画の見直しを行なっている。また、モニタリングの前に事業所内でケア会議を行い対象児童についてのか状況や支援の内容について話し合いを行なっている	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		モニタリング前に、対象児童についてのケア会議を持ち、現在の様子や課題などを整理した上で会議に参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11		連携して取り組んでいる学校はまだ少ないが、モニタリング会議等を通して支援の方向性を話し合う機会があり、連携して取り組む態勢は整えている。	

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13		移行支援として会議を持ち、情報の共有と相互理解を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13		情報共有をと相互理解を図るための会議を持っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会なども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	5	7	必要な際には、相談をすることができる	事例検討会などにスーパーバイザーに入ってもらい助言していただく機会がもてるとよい
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	8		土曜日など他の子と関わるプログラムを検討
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13		・日頃の状況を送迎時やLINE、お便り帳を通して伝えることができている。 課題等は、適時相談があった際やモニタリングなどの際にお伝えしている。 ・会社のSNSを作成し保護者とつながることで、日々の生活を伝えることが出来る。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12△1		保護者会の際に、勉強会やピアカウンセリングを目的としたグループ相談会を併せて開催した。	勤務期間が短いため、把握できていない。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13		契約時に丁寧に説明させて頂いている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		会議等での保護者からの聞き取りや、日頃の児童の様子を見ての観察した状況、児童からの聞き取りなども踏まえて計画を作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	13		説明の際に、変更や修正点がないかを確認しながら同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		電話やLINE、保護者会、送迎時に相談を受け助言を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13		今年度は、保護者会や保護者交流会などの保護者向けの研修や情報提供の機会、文化祭やひと葉祭りなど家族やきょうだいの参加できるイベントを多く開催し、交流の機会を設けることが出来た。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		相談や申し入れがあった際は、適切に対応をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13		・年間行事予定表や毎月行事予定表を配布し、イベントの前にはその都度、お知らせを配布している。 ・会社のSNSを作成し保護者とつながることで、日々の生活を伝えることが出来る。	

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		・ 個人情報に関するファイルは鍵付きの書庫に保管し管理しており、就業時に個人情報の取り扱いについての確認をしている。また、保護者様においては個人情報の取り扱い（写真等）について了解を得ている ・ スマホの使用をルール化し、児童全員に伝えている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		・ 保護者様とは、電話やライン、対面など色々なツールを使って連絡手段を確保し情報の共有を行っている。また、児童に対しては個々に合わせて言葉や文字、イラスト、ジェスチャー等も使用している ・ 地域の施設や備品を借用する際には、事前に連絡を入れている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	1	地域の児童センターでイベントを行い、そこへ児童センターに来ていた児童を招いて交流の機会を設けることが出来た。また、ハロウィン会では、地域のお店に協力していただいてお菓子をもらいに行くなどの関わりを持つことが出来た。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		マニュアルを整備し訓練を実施することは出来たが、周知の部分でまだ行き届いていない部分もあるので、今後の課題としてあげられる。	役割分担を決め、シュミレーション研修を行うとよい
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13		災害時の避難訓練を行っている。 今後は、避難訓練の内容や設定のレポートを増やしていくことで、非常災害時に対応できるスキルが身につくと思うので、検討していきたい。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		・ 服薬やてんかんについては、聞き取りを行っているが、予防接種に関しては聞き取りが不足しているので今後の改善項目として取り組みたい。 ・ 日々のミーティングや業務会議などで全職員に認知している。	確認した内容を共有できるようにする
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	2	アレルギーの有無や対応に関しては、保護者からの聞き取りに留まっているので、医師の指示書を提供していただけるように促していきたい。	生活管理指導表（食物アレルギー疾患）を提出してもらえるとよい。エビペン有無。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		安全管理についての委員会を設置し、安全管理についての会議を持つことが出来た。その会議から安全管理の改善に至る部分もあった。ただ、まだ、十分に機能しきれていない部分もあったので、今後の課題として改善に取り組んでいきたい	安全計画は年度当初に配布されるとよい。）
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	1	災害時の避難場所や事故時の対応について周知できている。 安全計画に基づく取り組み内容に関して周知が不足している部分があるので今後の改善として取り組んでいきたい。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	2	ミーティング等で共有を行い、再発防止に向けての検討をしている。	リスクの予測とその対応について確認する場を持つようにすると良い。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		・ 虐待防止に関しての事業所内研修を行った。また、普段から風通しの良い職場環境が保たれている事も良い点と考えられる。 ・ ガイドラインの読み合わせを行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13		対象となる児童がいないので、行っていないが、今後必要の際は職員間で十分に話し合いを行い検討し、保護者様に了解を得て計画に落とし込んでいきたい。	